

学長特別研究の概要

テーマ：「大学における地域貢献活動と活動拠点のありかたの研究」

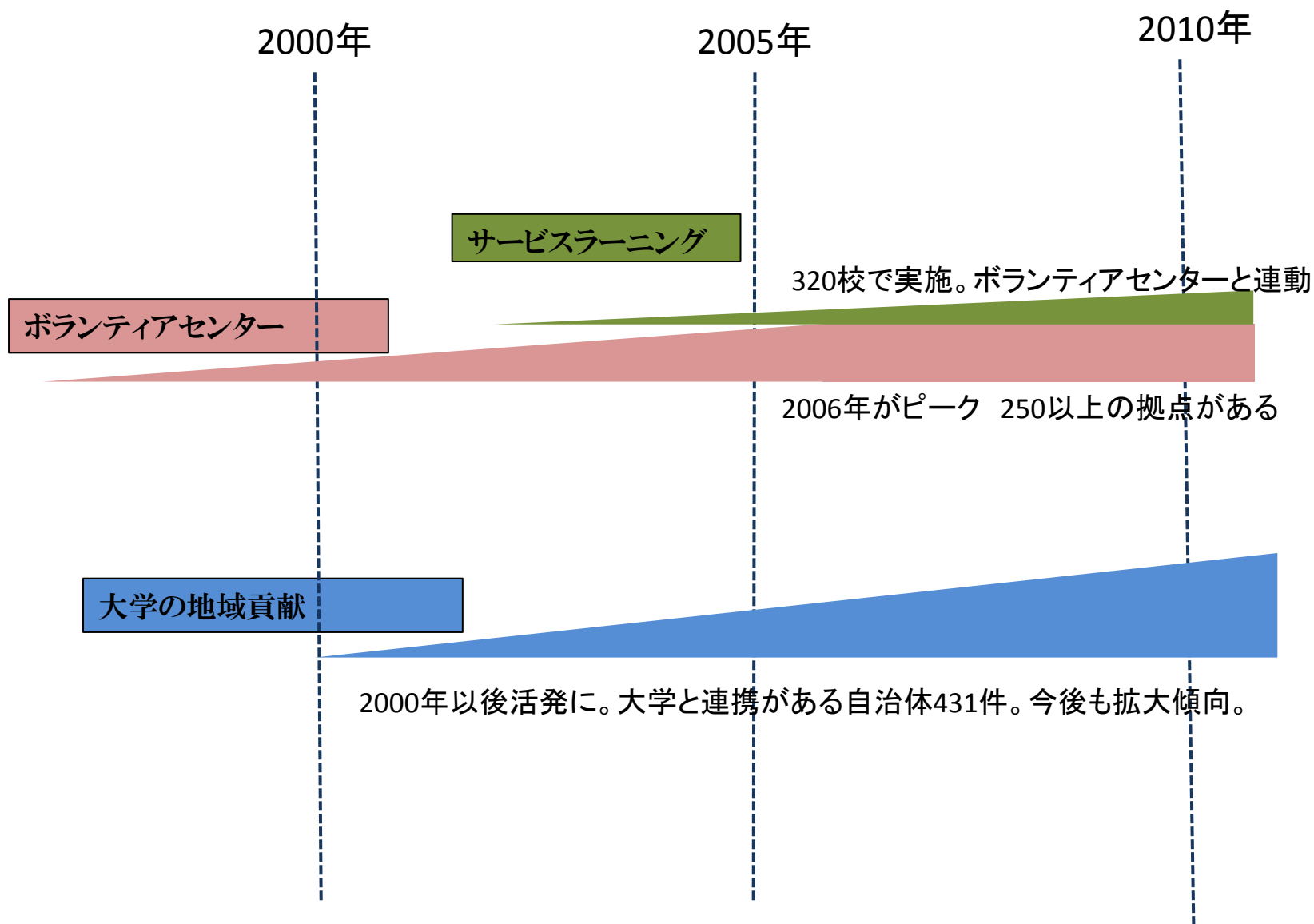
期間：2013年4月 - 2014年3月

担当教員：
池上重弘(文化政策学部国際文化学科)
下澤 嶽(文化政策学部国際文化学科)
田中 啓(文化政策学部文化政策学科)
峯 郁郎(デザイン学部生産造形学科)
和田 和美(デザイン学部メディア造形学科)

研究目的

- (1) 既存の大学における地域貢献活動と活動拠点の在り方の研究を通して、静岡文化芸術大学における地域貢献の在り方を提言する。
- (2) 浜松地域での静岡文化芸術大学にふさわしい活動メニューの開発をする。
- (3) テーマに関心のある学生への情報提供と協議の場づくりを行う。

大学の地域貢献・3つのトレンドのイメージ



日本の大学における地域貢献の3つの流れ

ボランティアセンター

- 一番早く始まったスタイル（1987年）
- 学生の希望と地域のニーズの調整が主
- 学生が単純な労働資源化されやすい
- 大学の特色を出しにくい

サービスマーケティング

- 学生の学びを優先 カリキュラム化 学びの効果は高い
- 事前学習 → 実践 → 事後学習を徹底
- 少数の学生しか参加できない
- 地域側は「お世話する」イメージ

大学の地域貢献

- 大学全体の特徴を生かせる
- 大学スタッフと学生が混合型で貢献
- 地域への影響力・方向性が安定し、効果を上げやすい
- 一部の担当者だけのプロジェクトになりやすい

大学が**地域側のニーズ**に近づく

&

大学の**多様なアクター**が参加しやすい
土壤をつくること

まとめの提言

運営に地域の参加を

- ①活動拠点の**運営**へ地域関係者の参加
- ②地域関係者の**活動計画・実施時**の参加
- ③地域関係者の**活動評価**への参加
- ④拠点スタッフに**地域活動家**の参加
- ⑤**拠点を街中**におき、他大学のボランティアともネットワーク

教員、学生の主体的参加を

- ①**地域貢献**にとりくむ教員へ**特別研究費**の検討
- ②**ゼミ**を単位とした地域貢献活動を促進するための支援策の検討
- ③**学生サークル**の地域貢献活動への支援策の検討

特性を活かした活動を

- ①**多文化共生**の促進とネットワーク
- ②**ユニバーサルデザイン**の普及
- ③**文化・アートイベント**などの共同開催
- ④**商品開発・ソーシャルビジネス**の支援